



安方中だより

令和8年3月16日 第5号

大田区立安方中学校

「朝のいのり」

校長 佐藤 彰

このところ、きれいな着物や袴を身につけた学生や、花束や色紙、贈り物を手にした高校生を見かけるようになりました。中学校より一足早く卒業式を行う、大学生や高校生の姿でしょう。どの顔も晴れやかな笑顔です。見てみると心の中で、「これから先、いいことばかりじゃないけど、頑張れよ」と願いたくなります。

今回は、山本 沖子さんという詩人に「朝のいのり」という詩があるので紹介します。



【卒業式練習の様子】

紺色の制服を着て、カバンをさげ、中学校に行こうとする娘に、私はかたりかける。

いってらっしゃい、気をつけてね。

赤ちゃんだったあなたを抱いて、ママは待っていますよ。

今朝は雪が舞っているから、赤ちゃんを暖かくくんで、窓から雪を見せてあげましょう。

赤ちゃんは風邪をひきませんよ。

だから、あなたもケガをしないでね。

ママはあなたを、だいに抱っこして、待っていますよ。

ほら、赤ちゃんのあなたが、今日のあなたに、バイバイをしていますよ。

いってらっしゃい、気をつけてね。

生徒の皆さんはこの詩を読んでも、「ふーん・・・」という感じかもしれません。しかし、子どもを見送る親にとっては、胸に迫るものがあるのではないのでしょうか。

親は子どもが出かけるのを見送る時、その背中に赤ちゃんだったころの姿や、大きなランドセルを背負って駆け出していたころの姿も見えているのです。それは、君たちが高校生になっても、学生になっても、社会人になっても少しも変わりません。君たちが60歳になり、親が80歳を過ぎても何も変わるものではないのです。それが親というものです。大げさかもしれませんが、親が子どもを思う気持ちや愛は、時空をこえるのだと思います。

「いってらっしゃい、気をつけてね」。当たり前のように毎日交わされる言葉。いつか君たちが、愛する人にこの言葉をかける時が来ます。その時に、君たちのお父さんやお母さんの気持ちが痛いほど分かるはずですよ。

40歳を過ぎた頃の正月に、小さかった息子を連れて福島の実家に帰った時の事です。私は小さい頃、食事をする時に左手をコタツに入れたまま食べる癖があり、母に「手を出して食べなさい！！」と厳しく叱られました。横着していたのと、福島の冬は寒いのでそうしたのだと思います。

まだ元気だった両親と息子と、その正月に食事をしていた時、どうも私が左手を出さずに食べていたようです。すると母が私に、「彰、手を出して食べなさい」と言いました。私は、「あ、あー」と言いながら手を出し、息子は「パパがおばあちゃんに叱られた」という顔でニヤニヤしていました。

心の中で、「まったく、いくつにならと思うてるの・・・」と思うと同時に、いつまでも心配してくれる親のありがたさをしみじみと感じました。

今も時々、息子が出かけるのを見送ります。「どこに行くの？何時に帰るの？」と聴いてもあいまいな返事しかせず、玄関を出たらイヤホンをして振り返りもしません。でも、その背中に愛らしかつたころの姿や、一緒にお風呂に入ってクイズを出していたころの様子がいっつも重なります。そして、「いってらっしゃい、気をつけてね」と、語りかけます。

保護者の皆さまにとって、お子さまが義務教育を終えることや、15年間無事に育て上げてこられたことを想う時、感慨は言葉に尽くせないことと思います。生まれてきてくれた日のこと、着替えを嫌がって逃げる子を追いかけた日々、初めて一人でトイレができた日のこと。今の姿と重ね合わせた時、胸にせまるものがあるのではないのでしょうか。親にとっては、15年前はついこの間のことです。

令和8年3月19日に本校第65回卒業式を迎えます。担任呼名、卒業証書授与、答辞、みんなで歌う「群青」の合唱、大好きな校歌の斉唱。受験を乗り越え立派に成長した姿、凛々しく爽やかな表情、未来を見つめる美しい眼差し。卒業式は本人や保護者、地域の皆さま、教職員に「感動の記憶」として共有される「最後の授業」であり旅立ちの儀式です。

最後に、安方中学校の皆さんに、^{たかはま}高浜 ^{きよし}虚子の俳句を送ります。

「春風や 闘志いだきて 丘に立つ」 みんな、負けるな。

「表彰」おめでとう！

【大田区剣道新人大会】

- 2年男子個人 優勝 渡邊 蒼太さん
第3位 笠井 大吾さん
敢闘賞 小島 慎平さん
- 1年男子個人 優勝 小谷野悠希さん
第3位 坂場 琥海さん



- 2年女子個人 準優勝 水野 花純さん
第3位 吉永 陽愛さん
敢闘賞 杉山 咲綾さん
- 1年女子個人 第3位 山崎 詩子さん
敢闘賞 吉田衣莉奈さん 由利 葉奈さん



【吹奏楽部】

- 第59回東京都中学生
アンサンブルコンテスト
『金賞』



【新聞コンクール】

- 入選 百瀬 ゆりさん
「EKOMOMAI 新聞」

秋山 竜祐さん
「アメージング東大寺」

